

学生実験の集大成

「自主テーマ実験Ⅱポスター発表会」大いに賑わう

学生たちがグループで行いたい実験を掲げて取り組む自主テーマ実験は、応用バイオ科学科の一大イベントです。今年の3年生達もこれまで同様、放課後や休日まで出てきて実験を行っていました。中でも、「浮気」に影響を及ぼすノンプレッシン受容体の遺伝子型を調べた、入江史雄さん、鶴田純平さん、齋藤一樹さん、宮田翔子さん、南悠平さんのチームと、「アポカド+わさび醤油=大口を検証する」と題して味覚や食感に迫った小野寺由貴さん、馬場敦史さん、志澤友彰さん、山本剛士さん、川村知愛さん、落合将太さんのチームが最優秀賞を分けあいました。研究内容もさることながら、チームワークよく、熱心に実験に取り組んだことがみんなに伝わったのかもしれない。後期からは就職活動が始まります。3年生の皆さんには、この経験を生かして、自分たちの可能性を主張すること、仲間と協力すること、相手の期待以上に努力することを忘れずに、がんばってほしいと思います。



最優秀ポスター賞を受賞した「遺伝子型」のチーム



ポスター発表風景(発表者:遠藤直美さん)



ポスター発表風景(発表者:劉 俊傑さん)



最優秀ポスター賞を受賞した「大口」のチーム

第1回

「バイオコンテスト」開催

2年生のバイオ実験Ⅱにおいて、「考え、工夫し、改良しながら作り上げる力」を養うことを目指し、楽しみながらバイオを学べる教材作りに取り組みました。学生達は、個人の企画案をたたき台として、グループ(1グループは8名)テーマについて討議したり、教材作りを効率的に進めるために、グループ内できちんと役割分担を決めたりしていました。発表会は履修者全員(約150名)の前で行い、最後に、優れた教材を投票で決められたところ、紙芝居で酵素の働きを上手に説明したグループ(長澤夏実さん、長島博揮さん、新倉一希さん、新倉正之さん、養手辰実さん、宮国比呂夢さん、宮澤宏未さん、宮原康正さん)の発表が最優秀賞を受賞しました。



教材(カードゲームでコドンを学ぶ)を作成している様子



最優秀賞のグループと作品

KAITスタジアムでのクイズ大会 「1年生クラス会」

学生と教職員の親睦をかねて、6月3日に1年生のクラス会をKAITスタジアムで行いました。今回のクラス会は、食事を取りながらの懇親会ではなく、クイズ大会としました。1年生を24チームに分け(1チーム6~7名)、各教職員が出題する難問・奇問(?)に三択で答えてもらいました。途中、基礎・教養教育センター藤村陽教授の発案で、有志による「徒競走」も実施され、大いに盛り上がりました。学生達は、正解数の多いグループに贈られる豪華賞品(?)を目当てに、グループ内で知恵を出し合いながら、ボカボカ陽気の中、人工芝の上で楽しいひとときを過ごしていました。



1年生クラス会、クイズ大会の様子

インターンシップに取り組む学生達

企業、官公庁などでインターンシップ実習を行った学生達から、無事実習を終えた旨の連絡が届いています。初めての就業体験に感じたことも様々なようですが、皆、大いに刺激を受け、「もっと勉強しなきゃー」と痛感している学生もいました。また、「同じ会社でも職場によって雰囲気が違う」とか、「自分の仕事に興味をもつことが大事」といったコメントもあり、就職活動本番を控え、大変有意義な経験をさせて頂いたと思います。実習内容は10月の報告会で発表されます。実習に参加できなかった人は彼らの経験をぜひ参考にしてください。末筆ながら、今回学生を受け入れ、ご指導くださった企業等の皆様に厚く御礼申し上げます。

高校生に科学の面白さを伝える活動

【サマースクール】

7月26日から29日まで、高校生対象のサマースクールが本学で開催され、応用バイオ科学科局俊明教授と山村隼准教授による「微生物で水をきれいにしてよ」というテーマに、6名の高校生が参加しました。BODやCODといった水質分析方法の修得から始まり、微生物を利用して「米のとぎ汁」を浄化する実験や、微生物の顕微鏡観察、あるいは大学内の水処理施設の見学など、盛り沢山の内容でした。参加者全員は熱心に、また楽しそうに取り組んでいました。特に、米のとぎ汁が浄化されていることを水質分析によって確認した際には、微生物の能力の高さに、みな驚いているようでした。将来、参加者の中から、微生物を用いた環境浄化技術に関わる研究者を目指す人が出てくられたらと期待しています。

【県立厚木北高等学校との連携授業】

県立厚木北高等学校との高大連携授業が応用化学科との協力のもと、7月12日と13日に行われました。「食品に含まれる塩分量を測ってみよう(清水研究室)」「大腸菌の遺伝子組換え実験(小池研究室)」「遺伝子捜査で犯人を探そう(飯田研究室)」のテーマで、合計30名の高校生が2日間にわたって大学の研究室での本格的な生物実験を体験しました。見慣れない器具や装置を使っての実験と講義を織り交ぜながら、高校の教科書の先にあるサイエンスを感じてもらえたでしょうか?

昨年の県立厚木北高等学校での出張講義をきっかけにDNAに興味を持ち、2年生になって今回のサマースクールの遺伝子組換え実験の体験に来てくれた男子生徒さんが、帰り際に目を輝かせながら進学への夢を語ってくれた姿が印象的でした。生命科学を志す高校生の皆さんの知的好奇心に刺激を与えられたようです。